

13:50 前時の復習とテーマの確認



授業
ハイライト

主体的・対話的で
深い学びへ

実践
アクティブ・ラーニング

日本史

●2年生「日本史B」の「武士の社会」で、全4時間のうちの2時間目。北条氏が鎌倉幕府の中で権力を掌握した過程をグループで議論し、課題に対しての解答を作成しながら、武士社会の成立についての理解を深めた。(P.29に単元の指導計画を掲載)

「もし皆さんの生きる社会が、生き方の選べない社会だったとしたら」。武士の社会について学ぶ中で、その課題を乗り越えるヒントを得る。前時では、北条氏が権力を得た過程を理解するために必要な、執権や世襲といった用語の意味を学んだ。それらの理解を基に考察を進める本時では、まず前時の復習として、挙手した生徒に概念を解説させた。

歴史から生きるヒントを獲得し、
学び方を学ぶ「2ターム授業」で、
学びへの意欲を高める

野澤宏光先生が授業改善に本格的に取り組み始めたのは、栃木県立黒磯南高校に赴任して最初の中間考査を終えた時だった。生徒から、「先生の授業は面白くて分かりやすいけれど、テストはできなかつた」と言われたことがきっかけだった。

野澤先生のアクティブ・ラーニング

日本史の授業を通じて生徒に
身につけさせたいことを問い直す



栃木県立黒磯南高校

野澤宏光 のざわ・ひろたか

教職歴7年。同校に赴任して5年目。学習指導部長。地理歴史・公民科担当。校内外で研修や視察を重ね、独自の指導法構築に努めてきた。

栃木県立黒磯南高校

◎普通科高校として開校後、2013年度に総合学科に学科改編。校訓は「至誠敬愛・自律自尊・進取究明」。国際理解教育、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、街おこしを始めとするボランティア活動などに取り組む。2022年度、福祉系列を導入予定。

◎設立 1976(昭和51)年

◎形態 全日制/総合学科/共学

◎生徒数 1学年約160人

◎2019年度進路実績(現役のみ)

私立大は、足利大、埼玉工業大、文教大、神田外語大、工学院大、拓殖大、東京工芸大、日本大、立正大、神奈川大などに延べ39人が合格。短大、専門学校進学85人。就職33人。

◎URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/kuroisominami/nc2/>

14:02 グループワーク (前半)



各自が立てた仮説を基に、「子どもを将軍にして、その陰で自分が政治を操ろうとしたのではないか」「将軍にならなかったのではなく、なれなかったのではないか」など、グループで意見を出し合った。その途中、「執権と将軍はどちらが偉いのか」などと、歴史用語の意味を調べ直しながら、生徒同士で議論を深めていった。

13:55 資料の確認と個人ワーク



グループワークの課題は、①鎌倉幕府の中で、将軍はどのような存在だったのか、②北条氏は、なぜ将軍にならなかったのか、という2つの問いについて、前時の学習内容と、中世社会の身分秩序や将軍と御家人の関係に関する資料を基に考えること。まず、グループの中の1人が資料を音読し、個人で①②それぞれについて仮説を立てた。

「その頃は、私が高校時代に受けた面白い授業を再現することを心がけていましたが、それでは、生徒は分かった気になっただけで、知識は生徒のものになっていませんでした。授業は、教師が上手に話して生徒を楽しませるショーの場ではないことに気づかされました」

野澤先生は改めて、授業を通じて生徒に何を身につけさせたいのかを考えた。そこでたどり着いたのが、歴史から生きていく上でのヒントを学ぶこと、そして、授業を通して学び方を学ぶことだった。

「歴史上の人物は、どのように困難を乗り越えて社会を築いていったのか。歴史を学ぶ中で得られる先人の教えは、人生に役立つと生徒に実感させることで、学びへの意欲を高められるのではないかと考えました」

目標に掲げた授業を実現するため、野澤先生は様々な方法を試した。最初に取り入れたのは、他校視察で知った知識構成型ジグソー法(＊)だった。やるなら徹底的にと、すべての授業で行った。生徒は楽しそうに取り組み、話が上手になったが、歴史への理解が深まったといった手応えや、学ぶ力が向上したという実感はなかった。

「学習内容への理解を深めるために必要な過程は、今学んでいる内容が何につながるのか、『見通し』を持たせることと、学びの意味づけをするための『振り返り』です。当時の授業には、それらの視点が欠けていました」

思考の活性化・深化への配慮

習得と活用の「2チーム授業」で先人の哲学に触れる

試行錯誤の結果、野澤先生は、2つのチームに分けて授業を構成する「2チーム授業」を考案した。両チームを通して生徒が考える問いを設定し、前半のAチームでは、問いの趣旨を理解させた上で、それを考えるために必要な知識を習得させる。そして、後半のBチームでは、問いについて生徒同士で議論し、歴史と自己を結びつける振り返りを行う。

今回の授業では、「もし皆さんの生きる社会が、生き方の選べない社会だったとしたら」をテーマとし、「鎌倉幕府の中で、将軍はどのような存在だったのか」「北条氏は、なぜ将軍にならなかったのか」を問いとした。官職が世襲だった鎌倉時代、将軍職に就くことができない北条氏は、役職に固執せず、執権として実権を握った。血筋という自分の力ではどうにもできない壁を柔軟に乗り越えた北条氏のしたたかさを、生徒に学んでほしいと、野澤先生は考えたのだ。

前時のAチームでは、野澤先生がテーマを伝え、「歴史の中に答えを出した人たちがいるよ」と言って授業への期待を高めた。生徒は、副教材を読みながらグループで空所補充問題に取り組み、時代の流れをノートにまとめた。その際、鎌倉時代の将軍や執権の地位など、問いへの解答に必要な情報を簡潔に、難しい言葉を知らな

* ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。

14:35 解説、振り返り



野澤先生が問いについて解説した。ポイントを説明した上で、「北条氏は、血統的に摂政・関白や将軍になれない」「将軍は権力を握るための道具だった」など、最低限理解すべき事柄を端的に伝えた。問いの模範解答は渡さず、定期考査までに各自で考えることとしている。最後に、振り返りシートに自己評価と授業で感じたことを記入して提出した。

14:25 グループワーク(後半)



制限時間内に結論を出せないグループが多かったため、野澤先生は活動を10分間延長した。「問いは『なぜ将軍にならなかったのか』だから、北条氏が摂政将軍を京都に追放したことまで書く必要はないと思う」など、何が問われているのかを確認しながら、解答を推敲した。まとめ終えたグループから、A3判の用紙に解答を記入し、黒板に掲示した。

場づくりへの配慮

グループワークは3人とし、メンバーは1年間固定

野澤先生は、グループワークは3人が適切だと考えている。4人ではずっと発言しない生徒が出る場合があり、2人では議論が行き詰まることも多いが、経験上、生徒同士のやり取りは、3人が活発だという。なお、グループのメンバーは1年間固定としている。

「人間関係づくりが目的ではないので、問い

い中学生でも理解できる文章にまとめるよう指示した。必要な情報は何かを精選させることは、本質を見抜く目を養うための工夫だ。そして、野澤先生が15〜20分間、講義を行い、最後に復習プリントに取り組ませた。

Bチームである本時では、前時での学びを踏まえ、野澤先生が難関大学の入試問題をアレンジした問いについてグループで議論し、解答を作成。最後に、野澤先生が先人の教えを伝えた。「壁にぶち当たった時、北条氏のしたたかさを思い出し、逆境を乗り越えるアイデアとバイタリティーを発揮してほしいと思っています」

振り返りでは、主体性や協働性、思考力について5段階で自己評価し、授業で学んだこと、それを人生にどう生かしていきたいのかを書かせる。学習内容を整理し、自分とのかかわりを考えさせることで、学習内容を定着させる。

についてじっくり話し合うためには、メンバーを固定した方がよいと考えました」

成果と課題

授業後も学び続け、定期考査に向けて解答を練り上げる

Bチームで出した問いは、定期考査でも出題する。生徒は、授業の終わりに共有された他グループの解答や野澤先生の解説を参考にし、ベストと思われる解答を作り、試験に臨む。

「授業では、必要な語句や概念が抜け落ちていたり、文章に整合性がなかったりする解答もあります。定期考査では多くの生徒が練り上げられた解答を書きます。難易度が高い論述問題に対応できるまで、生徒は授業後も深く考え、学んでいるのだと手応えを感じています」

生徒の日本史への学習意欲も高まっている。昨年度末に行ったアンケートでは、日本史が4月と比較して「好きになった」「得意になった」「もっと学びたい」と回答した生徒は8割以上だった。模擬試験の結果も、2年生11月から1月にかけて上昇した。

「当面の目標は、現在の授業スタイルで、思考力・判断力・表現力がより問われるようになる大学入試において結果を出せるようにすることですが、いずれは、生徒自身が問いを考え、必要な基礎知識を主体的に身につけていける授業に進化させたいと考えています」

単元の指導計画

【教科・科目】地理歴史・日本史 B 【分野・単元】中世社会の成立 武士の社会 【テーマ・作品】武士社会の形成 【設定時数】全4時間の中の2時間目 【単元目標】知識を活用しながら対話的・協動的に歴史の本質を考えるを通して、「武士の社会」について構造的に理解する。歴史から先人の教えを学び取り、自己と結びつけることで、歴史への興味・関心を高める。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	武士の社会① 「北条氏の台頭」 「承久の乱」「執権政治」 テーマ「もし皆さんの生きる社会が、生き方の選べない社会だったとしたら」 問い「鎌倉幕府の中で、将軍はどのような存在だったのか」「北条氏は、なぜ将軍にならなかったのか」	Aターム • 学び方を身につけ、活動に前向きに取り組む。 • 基礎的・基本的な知識の定着。 【知識、技能、主体性】	①導入/テーマと問いの確認。 ②概観/グループ内でじゃんけんをし、負けた人から順番に、副読本の本時の範囲を音読。 ③情報整理/グループで「整理ノート」と「Aタームまとめプリント」に取り組む。本時の内容について、小テーマごとに「中学生が分かるように」「情報を精選して」まとめる。 ④解答・解説/講義形式で解答と解説。 ⑤振り返り/一問一答形式の復習プリントと振り返りシートに、個人で取り組む。	【主体的な学び】授業で「学びの流れ(概観→整理[精選]→補足・確認)」を繰り返すことで、学び方を学び、自身で学びのサイクルを回していけるようになる。(通年の目標) 【対話的な学び】グループで協力して活動できるか。足りない部分(学びに向かう姿勢、基礎的・基本的な知識など)をお互いに補い合っているか。 【深い学び】教科の内容を手段や視点を交えて何度も繰り返し、自身でアウトプットしながら精選してまとめる中で知識を構造化させる。	• Aタームまとめプリント • 振り返りシート
2	武士の社会② 「武士の生活」「武士の土地支配」 テーマ「もしめ事が起きた時、どう解決したらいいか」 問い「鎌倉時代の武士(地頭)と荘園領主はどんな関係だったか」	Bターム • グループで協力しながら、難しい問いに粘り強く前向きに取り組む姿勢。 • Aタームで整理した知識を活用する過程で、知識を構造化できる。 • 学習内容を概念化し、先人の教えを自分の生き方やキャリアにどう生かせるかを考え、歴史と自己を結びつける。 【思考力、判断力、表現力、多様性、協働性】	①導入/テーマと問いの確認。 ②確認/グループ内でじゃんけんをし、負けた人から順番に、教科書の本時の範囲を音読。 ③深める/「資料プリント」に取り組む。問いへの解答をグループごとに作成。解答はA3判の用紙に記入して黒板に掲示。 ④共有/各グループの解答を共有し、必須の要素や解答の流れを確認。 ⑤振り返り/本時の学習内容について自分とのかかわりを考え、振り返りシートに記入。	【主体的な学び】「テーマ」や「問い」を通して、歴史の本質から「先人の教え」を学び取り、教科と自身を結びつけることで、学びへの意欲や教科への興味・関心を高める。 【対話的な学び】グループとしての意識を高める。多少の脱線は許容し、一人ひとりが発言できることを目指す。 【深い学び】知識を活用して、「問い」から歴史の本質を考えるを通して、知識を構造化・概念化していく。	• 振り返りシート • 定期考査での解答(Bタームの問いを定期考査で出題。他グループの解答や教師の解説を基に、解答を練り上げて試験に臨む。その過程を生徒の解答から評価) • 生徒の取り組みの様子
4	武士の社会③ 「武士の生活」「武士の土地支配」 テーマ「もしめ事が起きた時、どう解決したらいいか」 問い「鎌倉時代の武士(地頭)と荘園領主はどんな関係だったか」	Bターム • グループで協力しながら、難しい問いに粘り強く前向きに取り組む姿勢。 • Aタームで整理した知識を活用する過程で、知識を構造化できる。 • 学習内容を概念化し、先人の教えを自分の生き方やキャリアにどう生かせるかを考え、歴史と自己を結びつける。 【思考力、判断力、表現力、多様性、協働性】	①導入/テーマと問いの確認。 ②確認/グループ内でじゃんけんをし、負けた人から順番に、教科書の本時の範囲を音読。 ③深める/「資料プリント」に取り組む。問いへの解答をグループごとに作成。解答はA3判の用紙に記入して黒板に掲示。 ④共有/各グループの解答を共有し、必須の要素や解答の流れを確認。 ⑤振り返り/本時の学習内容について自分とのかかわりを考え、振り返りシートに記入。	【主体的な学び】「テーマ」や「問い」を通して、歴史の本質から「先人の教え」を学び取り、教科と自身を結びつけることで、学びへの意欲や教科への興味・関心を高める。 【対話的な学び】グループとしての意識を高める。多少の脱線は許容し、一人ひとりが発言できることを目指す。 【深い学び】知識を活用して、「問い」から歴史の本質を考えるを通して、知識を構造化・概念化していく。	• 振り返りシート • 定期考査での解答(Bタームの問いを定期考査で出題。他グループの解答や教師の解説を基に、解答を練り上げて試験に臨む。その過程を生徒の解答から評価) • 生徒の取り組みの様子

*野澤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全4時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(<https://berd.benesse.jp/>)からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

生徒の声



水野瑠華さん 私は、小学生の頃から歴史が好きでした。ただ、中学校時代は、日本史は暗記科目だ

と思っていました。しかし、野澤先生が授業で出される問いには、中学校の時の勉強の仕方では答えることができません。ただ知識を覚えるだけでは、歴史を本当に理解したことにはならないのだと気づきました。

野澤先生の授業の魅力は、自分の考えをみんなに伝え、他者の考えを吸収できることです。私は日本史が得意なことでもあって、グループワークでは説明する側によくりますが、メンバーの考えを聞くと「そういう視点もあるのか」と、自分があったり前だと思っていたことに改めて疑問を持ち、新鮮な気持ちで歴史を見つめ直すことができるようになりました。



菅保琴美さん 以前はグループワークに抵抗感がありました。自己紹介などをするアイスブレイクでメンバーと話しやすい関係ができました。グループワークでは話が脱線する時もありますが、授業を重ねる中で本題に戻すコツもつかめてきました。

野澤先生の授業には、どの時代でも面白いと思えることがあります。資料を読み取りながら自分なりに考えることで、深い理解や新たな発見が得られるからです。さらに、多様な視点を得られるのも、授業の醍醐味です。今回の授業で言えば、北条氏の権力の獲得手法は他の歴史上の人物とは異なりますが、役職にこだわらない生き方もあるのだと理解できました。そうして視点が広がることで、私自身のものの見方が厚みを増しているように感じます。